

2024 年度事業報告

I. 調査研究事業部門

2024 年度事業計画に基づき、嗜好品と人間・社会に関する心理学・社会学等の研究手法を用いた調査研究を実施すると共に、過去の調査研究によって得られた成果についての学会発表や論文投稿を行った。また、たばこ史・たばこ産業史上有意義な文献資料等の情報収集、論考の取り纏めに取り組んだ。研究助成については、嗜好品に関する人文・社会科学分野の研究を促進し学術の振興に寄与することを目的に、大学等の研究者への助成を引き続き実施した。

これらに関する考察等については財団機関誌や研究誌等の定期出版物、TASC ウェブサイトを通じて広く普及啓発を図った。

1. 調査研究事業

当年度に実施した調査研究活動は次のとおりである。

- (1) 嗜好品と人間・社会に関する調査研究
- (2) 心理学の手法を用いた調査研究
 - ✓ 2023 年度に実施した「嗜好品（コーヒー）摂取とレジリエンスに関する実験」による調査研究について学会発表した。また、論文は査読付き学術誌国際学術誌の BMC Psychology に掲載され、TASC ウェブサイト等で周知した。
- (3) 社会学の手法を用いた調査研究
 - ✓ 2021 年度に実施した「嗜好品と社会的意識及び行動の変化に関する調査」の調査研究について学会発表した。また、調査結果については適時 TASC ウェブサイトにおいて発表した。
- (4) たばこを始めとする嗜好品の価値研究
 - ✓ 嗜好品に関する個人や社会の嗜好、価値観、行動等に着眼した基礎的な研究として、たばこ及び他嗜好品に対する心理的効果に関する調査・分析を実施した。
- (5) たばこ史・たばこ産業史研究

たばこに関わる大学等研究機関の研究者や在野の研究者等との連携を図り、たばこ史・たばこ産業史上有意義な文献資料等の情報を収集し、論考の取り纏めを行った。

(4) 研究関連情報の整備

調査研究事業への効果的な活用を図るため、TASC 所蔵の書籍や研究報告書等諸情報の継続的な資料整備を行った。

2. 研究助成事業

- ・ 2023 年度分（7 件）の研究結果の報告会を実施し、助成研究報告書を作成した。
また、当該報告書を国会図書館に納本するとともに、全編を TASC ウェブサイトに掲載した。
- ・ 2025 年度分の応募があった助成研究について審査した結果、7 件を採択した。

3. 普及啓発事業

当年度に実施した普及啓発活動は次のとおりである。

- (1) TASC 定期出版物の発行
 - (2) 研究誌「談」130 号～132 号発行
 - (3) 機関誌「TASC MONTHLY」580 号～591 号発行
 - (4) 研究誌「たばこ史研究」159 号～160 号発行
 - (5) 「2023 年度事業概要」発行
- (2) TASC ウェブサイトによる情報発信
調査結果や助成研究の成果、定期出版物等の情報を適時掲載し、発信情報の充実を図った。

4. 受託調査研究事業

現代社会の諸問題等を研究領域としている学識者の探索を実施した。

Ⅱ. 博物館事業部門

2024 年度の入館者数は対前年度比 108%の 58,949 人となった(2024 年 10 月には開館からの総来館者数 360 万人を達成)。これは、当館として魅力ある展示の企画・実践や SNS を中心とした積極的な情報発信に加え、多くのメディアに取り上げられたことも大きな要因と考えている。

また、2025 年 4 月1日より、昨今の物価上昇に伴う様々なコストアップへの対応の必要性から、開館以来初となる入館料の改定を実施した。

2024 年度の事業活動は以下のとおりであるが、今後も収蔵品の保存管理・公開などの博物館機能の充実を図り、より一層、来館者にご満足いただけるよう努めていく所存である。

1. 安定かつ充実した博物館運営

- (1) これまで蓄積してきた知見を踏まえ、業務・運営面の課題等への対応を適時適切に行い、質の高い入館者サービスの維持に努めた。
- (2) JT との協業体制を維持し、人財育成および博物館において伝承すべき機能の補完・充実に取り組むとともに、各種研修等の受け入れを行った。
- (3) コスト意識を持ちつつ、メリハリある資源配分により計画性ある運営を行いつつ、職場環境の改善や職員のモチベーションアップを図った。

2. 調査研究の着実な推進

- ・ 2024 年度以降の展示企画に向けたテーマや以下の領域・分野を中心に、「たばこと塩の歴史と文化」および収蔵資料に関する調査研究を着実に推進した。
 - (1) たばこ文化の発生と伝播
 - ・ たばこ文化の発生と伝播
 - ・ 世界のたばこ文化
 - (2) 江戸時代の文化とたばこ
 - ・ 浮世絵・版本
 - ・ 江戸時代の各地の葉たばこ生産
 - ・ 江戸・明治期の喫煙具
 - (3) 近現代のたばこ文化・産業史
 - ・ 近現代のたばこ文化・産業史
 - ・ 戦前期の満州・朝鮮・台湾他、旧植民地関係たばこ調査
 - ・ 葉たばこ生産に関する調査、外部との連携
 - (4) 塩の文化・サイエンス
 - ・ 塩利用や塩生産の文化
 - ・ 塩のサイエンス
 - (5) 産業・企業系博物館論についての調査研究
 - ・ 産業文化博物館コンソーシアム(略称、COMIC)や各種学会への参加

3. 情報発信力の維持強化

(1) 情報発信活動

① 特別展等の開催

- ・ 2024 年度は当初計画どおり特別展を 4 回実施した。また、各々の展示関連の講演会やイベント等を計 16 回開催し、質の高い情報発信に努めた。

② イベント・講座

- ・ 3 階視聴覚ホール横廊下等を利用してミニ写真展「生きている遺産としてのスーダンの嗜み - 混迷の時代を超えて」を開催するとともに、関連シンポジウムを開催した。
- ・ 「古文献・古文書を読む会」をほぼ月 1 回のペースで 11 回開催した。

③ 刊行物

- ・ 2024 年 7 月に「2023 年度版 たばこと塩の博物館年報第 39 号」を発行した。

④ 常設展示・視聴覚ホール・図書閲覧室

- ・ 常設展示の展示替え

江戸時代のたばこ文化コーナーは、時節に合わせた展示替えを 7 回行った。コレクションギャラリーは、「人気芸者のたばこ入れ - 吉住はまコレクション」を始め、展示替えを 6 回行った。

- ・ 視聴覚ホール

主に特別展に関連する講演会やメディア対応で活用した。なお、講演会は、引き続き、WEB での事前申込・先着順での開催とした。

- ・ 図書閲覧室

特別展に合わせて開架図書を変える等、来館者サービスの向上に努めた。

(2) 収蔵資料等のデータベース化と活用

- ・ 収蔵資料等のデータベース化を継続的に推進し、効率的な情報探索を可能とすることで、特別展の企画立案や外部対応等に活用した。

(3) 周知・広報活動

① 所在地・アクセス案内

- ・ 公式ホームページ、最寄り駅でのポスター・出口案内板の掲出、電柱広告ならびに消火栓標識広告等による案内を行った。

② 特別展・イベントの周知

- ・ ニュースリリース、公式ホームページ、SNS や新聞等の多様なメディアを戦略的に活用して、特別展・イベント等の周知を効果・効率的に実施した。
- ・ 展示期間中においても、公式ホームページや SNS に展示解説や見どころを積極的にアップし、興味関心のあるお客様が楽しめるコンテンツを作成した。

③ 他施設等との連携

- ・ 東京を中心とする美術館・博物館等 103 施設の共通入場券&割引券「ぐるっとパス 2024」に参加した。

4. 資料整理・保管・収集等

(1) 資料整理の継続、保管体制の維持

- ・ 収蔵資料の整理を順次進めるとともに、収蔵庫を含めた館内全体の定期的な環境モニタリングおよび総合的有害生物管理(略称、IPM)の体制を維持した。

(2) 寄贈資料への対応

- ・ 寄贈資料については、適切なリファレンスを行った上で、資料検討委員会において受入可否の評価を行い、426 件を受入・登録した。

(3) 資料購入・収集

- ・ 収蔵資料の更なる充実を図るため、たばこや当館所在地に関連する隅田川周辺を描いた浮世絵等、優先度や必要性の高い資料を 88 件購入した。
- ・ たばこの新製品に関するパッケージやポスター等の実物・データの資料収集も継続して行った。

5. 地域社会との良好な関係維持

- ・ すみだ企業博物館連携協議会等への参加を通じ、近隣博物館との意見交換や交流を積極的に行った。
- ・ 特に、同協議会監修のもとで開催した特別展「日常をつくる! 企業博物館からみた昭和 30 年代」は、異なる歴史や商製品をもつ複数の企業博物館の連携ということで、業界内でも大きな反響があった。

6. その他の活動

(1) 職員の教育・研修

- ・ 関連団体・各種学会の研究・研修会等に積極的に参加した。
- ・ 新規学芸員(日本近世史)の募集活動を実施した(2025 年 4 月 1 日付で採用)。

(2) 来館者サービス向上

- ・ 特別展にあわせて、担当学芸員による展示解説を積極的に行い、開催タイミングも休日に加えて平日に試行開催することで、来館者から高い評価を得た。
- ・ 総合案内については、引き続き、多様な来館者ニーズに応じて適切かつ柔軟な対応に努めた。また、ミュージアムショップにおいては、オリジナル商品や特別展に関連した商品の販売を行う等、来館者に対して魅力ある提案を行った。

(3) 入館料改定に向けた準備

- ・ 2025 年 4 月 1 日の入館料改定(例:大学生以上 100 円→300 円)の円滑な実施に向け、事前周知(2024 年 1 月)を行うとともに、看板張替え等の準備作業を遅滞なく実施した。

(4) 博物館実習の受入

- ・ 2024 年 9 月に 6 大学 6 名を受け入れ、資料の整理・保管方法や展示に関する基礎的な知見・スキル等を指導した。